

公民館の図書室は 学びの入口・みんなの本棚

図書室月報

2024年(令和6年)
4月5日 第731号



PDF版

国立市中 1-15-1
TEL.042-572-5141
FAX.042-573-0480
国立市公民館

公民館図書室には約2万5千冊の蔵書があり、「市民の本棚」として利用していた
だけるよう、一人でも気軽に利用できる場として運営しています。新聞の閲覧や、本・
雑誌を借りることができます。

公民館では市民の皆さんが参加できる講座や催し物を随時行っており、そのテーマ・
内容に関連した本を優先してそろえています。公民館主催の講座や市民の学びと密接
に結びついていることが、公民館図書室独自の特徴です。

図書室をぜひ利用ください

—市民の本棚として
公民館活動の資料室として—

●図書室のこと

毎月一回開催しています。文学・
社会科学・自然科学・時事問題等、
様々なテーマの本をとりあげ、著
者や関係者に来ていただきお話を
聞く催しです。

著者の話を直接聞くことでその
テーマ・課題への関心や理解が
より一層深まります。

●図書室月報の発行

ご覧になっているこの「図書室
月報」は、公民館図書室の利用者
や講座参加者に原稿を寄せていた
だき、掲載しています。最終ペー
ジの「私の本棚から」は、お一人
に六回連続で、興味を持った本な
どについて、感想や紹介を書いて
もらっています。

紙面を通しての交流や学び合
いの場となるよう毎月発行して
います。バックナンバーを図書
室やホームページで読むことが
できます。

●市民グループの 発行物・ミニコミ収集

市内で活動するグループや団体
が発行しているチラシ・冊子等の
ミニコミ誌を収集して、閲覧でき
るようにしています。様々な市民
活動を集積・記録し、共有すると
いう公民館図書室の役割として行
っているものです。

グループ活動で発行・出版した
ものがありましたら、ぜひ図書室
にご寄贈ください。

●くにたち ブッククラブ

年間のテーマを設け、日本文
学から八作品を選び、参加者の
「読み」の発表と講師の講義です
める読書会です。

2024年度は「たしかにそこ
にいた『わたし』のこと」をテー
マに開催します。今号二ページ目
に年間の予定を載せています。

公民館図書室の 本や雑誌を 借りたいときは？

—くにたち電子図書館—

国立市に在住・在勤・在学の方で、図書利用
カードをお持ちの方は、パソコン・スマート
フォン・タブレットなどから利用できます。

本や雑誌を借りるためには、
「くにたち図書利用カード」が必要になります。

- くにたち図書館のカードをお持ちの方は、そのまま
お使いください。
- カードをお持ちでない方は、新たに登録をする必要が
あります。住所が確認できる健康保険証、
運転免許証などをお持ちください。
- 国立市に在住・在勤・在学の方、国分寺、府中、立川、
日野の市民の方は本を借りることができます。
- カードは5年ごとに更新が必要です。

※詳しくはお問合せください。





国立市公民館主催・文学講座 くくにたちブッククラブ

たしかにそこにいた「わたし」のこと

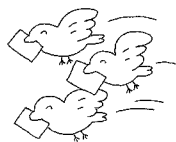


この講座では、参加者それぞれの作品を読んだ感想や講師のお話を聞いて、「読み」を深めます。「その経験がのちの人生のためになる」とか「神様は乗り越えられる人にしかに試練を与えない」とか、ひとは出来事に意味を見出そうとします。生まれ、暮らして、死んでゆく、ありふれたわたしたち。喜びがあり、悲しみがあり、希望と絶望がある……。そこに意味は必要なのでしょうか。消えてしまう一人ひとりの話を宝物のように紡いでいく。そんな物語を読んでいきたいと思えます。穏やかな雰囲気のでき場ですので、どなたでもお気軽にご参加ください。

と き	と ころ	申 込 先	月 日	作 品	講 師
夜7時半～9時半	公民館 講座室 定員 30名	公民館 (572) 5141	1 / 9 (木)	馳星周 『少年と犬』 (文春文庫)	大野 亮司 (亜細亜大学・日本近代文学)
			※12月木	滝口悠生 『高架線』 (講談社文庫)	深津 謙一郎 (共立女子大学・日本近代文学)
			※11月木	河林満 『湯水』 (角川文庫)	佐藤 泉 (青山学院大学・日本近代文学)
			10 / 10 (木)	大江健三郎 『取り替え子』 (講談社文庫)	榎本 正樹 (文芸評論家・現代日本文学)
			9 / 12 (木)	太宰治 『ヴィヨンの妻』 (新潮文庫)	尾崎 名津子 (立教大学・日本近代文学)
			7 / 18 (木)	林芙美子 『放浪記』 ※第一部を共通課題とします。 (新潮文庫)	小平 麻衣子 (慶應義塾大学・日本近代文学)
			6 / 13 (木)	坂東眞砂子 『神祭』 (角川文庫)	大木 志門 (東海大学・日本近代文学)
			5 / 9 (木)	井戸川射子 『「こはつ」も速い川』 (講談社文庫)	山岸 郁子 (日本大学・日本近代文学)

※11月・12月は
市民文化祭の日にちが
決定次第お知らせします。

くくにたちブッククラブに
参加してみませんか？



国立市公民館では、毎年様々な文学作品について学ぶ「くくにたちブッククラブ」という講座を実施しています。

講座では毎回、取り上げた作品の感想を参加者で共有し、講師に作品の解説をしていただきます。課題図書は、毎年参加者と講師、職員が話し合いながら決めていきます。

気になる作品の回だけ参加するもアリ！年間通して参加すれば、文学についてより深く学べることも間違いなし！
まずはお気軽にお問合せください♪

○各回の流れ

前半一時間：参加者の感想の共有。一人あたり二～三分程度で簡単に感想を発表

後半一時間：講師から作品についてのお話
※前半と後半は入れ替わることがあります。

講座終了後には、参加者一名にその回の感想文を書いていただきます。感想文は図書室月報に掲載されます。

○年間スケジュール

五月～一月 「くくにたちブッククラブ」各回実施

十二月中旬～一月中旬 来年度取り上げたい作品のアンケート受付
一月中旬頃 参加者と職員による今年度の振り返り、来年度の作品

二月中旬頃 来年度の作品についてブッククラブアドバイザーの講師を交えた話し合い

○文集を作っています！
その年に取り上げた課題図書についての感想文を掲載する文集を作成しています。一年の締めくくりに文集づくりに参加して、より一層学びを深めましょう。(文集作成への参加は任意です。)

《文集づくりのスケジュール》

十二月中旬～二月上旬 作品の感想文の執筆期間

二月下旬頃 参加者と職員で文集の読み合わせ、校正等
三月下旬～四月上旬頃 文集完成

新着図書から

〔総記〕

ChatGPTの先に待っている世界

川村秀憲 (d Z E R O) 007

尾形明子 (藤原書店) 051

今尾恵介 (白水社) 210

太田出 (えにし書房) 210

それは丘の上から始まった 1923年横浜の朝鮮人・中国人虐殺 後藤周 (ころから) 210

ドイツ人が語るドイツ現代史 ドミニク・ゲツバート (ミネルヴァ書房) 234

ドイツ国民の境界 近現代史の時空から 水野博子 (山川出版社) 234

母、アンナロシアの真実を暴いたジャーナリストの情熱と人生 ヴェーラ・ポリトコフスカヤ (NHK出版) 289

〔社会科学〕 コスタリカ「純粋な人生」と言いあう平和・環境・人権の先進国 伊藤千尋 (高文研) 302

〔新しい戦前〕のなかでどう正気を保つか 金平茂紀 (かもがわ出版) 304

民主主義の人類史 デイヴィッド・スタサヴェージ (みすず書房) 311

大学生がレイシズムに向き合って考えてみた 差別の「いま」を読み解くための入門書 貴堂嘉之 (明石書店) 316

ひろがる「日韓」のモヤモヤとわたしたち 加藤圭木 (大月書店) 319

平和に生きる権利は国境を超える パレスチナとアフガニスタンにかかわって 猫塚義夫 (あけび書房) 319

「戦争ごっこ」の近現代史

それでも母親になるべきですか ペギー・オドネル・ヘフィントン (新潮社) 367

これからの時代を生き抜くためのジェンダー&セクシュアリティ論入門 三橋順子 (辰巳出版) 367

昆虫カメラマン、秘境食を味わう 山口進 (集英社インターナショナル) 383

地球の冷やし方 ぼくたちに愉しくできること 藤村靖之 (晶文社) 519

天守のない城をゆく 澤宮優 (青土社) 521

よつちぼっち 家族四人の四つの人生 齋藤陽道 (暮しの手帖) 740

着物になった (戦争) 乾淑子 (吉川弘文館) 753

〔文学〕 心にしみる日本語 中村明 (青土社) 910

野火、奔る あさのあつこ (光文社) 91

最愛の 上田岳弘 (集英社) 91

BLANK PAGE 空っぽを満たす旅 内田也哉子 (文藝春秋) 91

ドードー鳥と孤独鳥 川端裕人 (国書刊行会) 91

アンと幸福 坂木司 (光文社) 91

月ぞ流るる 澤田瞳子 (文藝春秋) 91

女だろ！ 江戸から見ると 田中優子 (青土社) 91

中継地にて 堀江敏幸 (中央公論新社) 91

夜明けのはざま 町田そのこ (ポプラ社) 91

実母と義母 村井理子 (集英社) 91

アボカドの種 俵万智 (角川文化振興財団) 91



図書室の段差解消機が使用できるようになりました。

この度、故障していた図書室の2階と中2階をつなぐ段差解消機を入れ替え、ご利用いただけるようになりました。ご不便をおかけして、申し訳ありませんでした。階段での移動が難しい方はぜひご利用ください。ご利用の際は職員までお声がけをお願いします。また、公民館ではお身体の不自由な方は、事務室へお声がけいただけましたら、駐車場をご利用いただくことができます。



中2階



2階

図書室のつと

『日本の動物絵画史』

—「心」と「造形」からみえてくるもの—

お話 金子 信久 (府中市美術館 学芸員)

古代から近代まで、日本では多くの動物が絵画に描かれてきました。古墳の壁画、仏教画、禅画、屏風画など、一度はみなさんも目にした絵があるのではないのでしょうか。講師の金子さんは、「二つの国でこんなにも色々な動物の絵が描かれたということは、間違いなく日本の特徴である」とおっしゃいます。

今回の図書室のつといで、時代背景と照らし合わせながら、動物絵画が描かれてきた理由や、どのように描かれてきたかという視点を交え、金子さんにお話しいたします。「鳥獣戯画」から伊藤若冲、円山応挙、長沢蘆雪、徳川家光などの絵を鑑賞しながら、古代から動物絵画を描いてきた人々の心や、それを大切にしてきた人々の心に思いを馳せてみませんか。

〈金子さんの本〉

表題作(NHK出版新書)、『日本美術全集14若冲・応挙、みやこの奇想』(共著、小学館)、『もっと知りたい長沢蘆雪』(東京美術)、『江戸かわいい動物』(講談社) ほか。

とき 5月25日(土) 朝10時〜12時

ところ 公民館 地下ホール

定員 60名(申込先着順)

申込先 4月12日(金)朝9時〜



電話またはホームページより申込

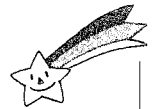
公民館 ☎(572)5141



〈私の本棚から 第1回〉

シャリーイ・ジャクソン著 『くじ』

鍛冶勝



無名の人間が、一夜にして、一流作家の仲間入りをはたす! そんなアメリカン・ドリームを体現したのが、著者のシャリーイ・ジャクソンです。

小説家になって五年。物書きとしては、まだまだ無名だった、当時29才の彼女は、1948年(昭和23年)、『くじ』という題の、不条理なショート・ストーリー(短篇小説)を創作し、高級誌『ザ・ニュー Yorker』に、原稿を送ります。

「これは、すごい!」

「こんな傑作、いったい、だれが書いたんだ!」 雑誌『ザ・ニュー Yorker』は、文壇に与える影響力の大きい、ワールドクラスのクオリティ・マガジンです。この雑誌に作品を発表するだけで、一流作家として認められ、ギャラがはねあがるという、世界の高級マガジン。日本からは、村上春樹氏、小川洋子氏の作品が、英訳されています。

小説『くじ』は、その『ザ・ニュー Yorker』が、息をのむほどの、できばえでした。上質紙に印刷された高級雑誌を、スリック・マガジン。安手の紙を使った雑誌を、パルプ・マガジンといいます。シャリーイ・ジャクソンの『くじ』は、前者のスリック・マガジンの王さまと比べていい、『ザ・ニュー Yorker』に、堂々、掲載されました。一本の短篇小説が、彼女を流行作家に押しあげる原動力となったの

です。

実際、『くじ』は、人の内奥にひそむ野蛮な本性を暴いた、マスターピースです。採点の辛い評論家も黙らせる、名作にはちがいありません。しかしながら、読後に嫌悪感を残す、いわくつきの作品です。だからこそ、文学史に残る傑作なのだと思います。

小さな村が物語の舞台です。この日、村人全員が参加する、くじが行われます。くじのあとで使う石を、用意して……と、もうこれだけで、結末を予想される読者も、いらっしやることと存じます。それでも、なお導かれたプロット(話のすじ)に、目の前が暗くなるのではないのでしょうか。人間なら、まずは、家族の代表者が、黒い木箱の中から、一枚ずつ紙のくじを引きます。当選した者は、あらためて、今度は家族全員で、もう一度くじを引かれ、最終的に、家族の中の一人が選ばれます。白紙の中に一枚だけ、黒丸のついた当たりくじが入っているのです。当選したその人間を、村人は……

日常生活を送る、ごく普通の人たちの心の闇にメスを入れる、作家の目。集団の利益のためなら、理由は二の次で、個人を犠牲にしてもかまわない。結果、引き起こされる事態を、かえりみることもせず、たった14ページで、人の裏面を描いて、あまざるところがありません。

「これはひどい!」「どこの村で行われている、くじですか?」昭和23年の読者が、この小説を、ノンフィクションと思いきんだのも、無理はありません。(早川書房)